

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道42号 紀宝バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国道交通量 中部地方整備局
起終点 自：三重県南牟婁郡紀宝町井田 至：三重県南牟婁郡紀宝町成川	延長 3.8 km	
事業概要 一般国道42号紀宝バイパスは、東紀州地域の幹線道路である国道42号のうち、三重県南牟婁郡紀宝町井田から紀宝町成川に至る延長3.8kmのバイパスです。		
S47年度事業化	—	S49年度用地着手
S55年度工事着手		
全体事業費 175億円	事業進捗率 78%	供用済延長 2.2 km
計画交通量 15,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 5.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 51/336億円 事業費：34/319億円 維持管理費：17/17億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 298/385億円 走行時間短縮便益：246/324億円 走行経費減少便益：49/58億円 交通事故減少便益：3.0/3.2億円	基準年 平成22年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施		
交通量変動：B/C=4.7 (交通量-10%) B/C=7.6 (交通量+10%)		
事業費変動：B/C=5.5 (事業費-10%) B/C=6.3 (事業費+10%)		
事業期間変動：B/C=5.6 (事業期間-20%) B/C=6.1 (事業期間+20%)		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保		
・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。		
・御浜・紀宝町方面からJR新宮駅へのアクセス向上が見込まれる。		
②物流効率化の支援		
・尾鷲港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる。		
③国土・地域ネットワークの構築		
・熊野市・尾鷲市と新宮市とのアクセス向上が見込まれる。		
④個性ある地域の形成		
・世界遺産「熊野古道」全域でのアクセス向上が見込まれる。		
⑤安全で安心できる暮らしの確保		
・三重大学付属病院、山田赤十字病院、和歌山市赤十字病院へのアクセス圏域拡大が見込まれる。		
⑥災害への備え		
・第一次緊急輸送道路に位置づけられている。		
⑦地球環境の保全		
・CO2排出量の削減が見込まれる。		
⑧生活環境の改善・保全		
・NO2排出量の削減が見込まれる。		
・SPM排出量の削減が見込まれる。		
・通学路でもある狭隘な現道区間の通過交通が削減が見込まれる。		
関係する地方公共団体等の意見		
・三重県の意見		
本事業は、紀宝町地内において国道42号の交通渋滞の緩和と交通安全の確保を図るための重要なバイパス事業です。		
今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、平成25年神宮式年遷宮を契機とした広域的な交流・連携の一翼を担うため、平成24年度供用へ向けた事業の推進をお願いいたします。		
事業評価監視委員会の意見		
「事業継続」することは「妥当」である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		
・交通事故の悪化		
・死亡事故の発生		
事業の進捗状況、残事業の内容等		
用地取得率100%		

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

事業区間：L=1.6km 平成25年度の全線完成供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

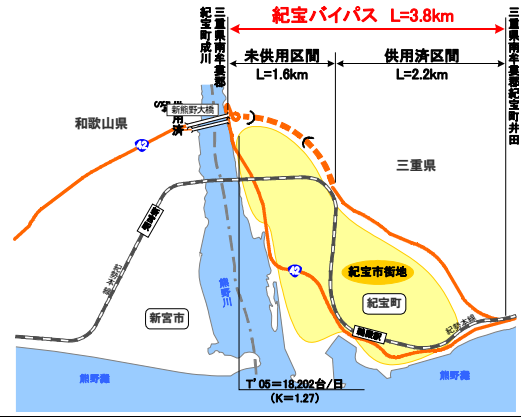
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。